

ケア ネット セ とう ち 通信

笑顔で 長生き できる まち

地域包括ケア推進全体研修会

「みんなでつくろう！笑顔で長生きできるまち ～地域で がんの療養生活を支えるために～」



<岡山赤十字病院 渡辺副部長>

基調講演：「がん診療と緩和医療

～がん診療連携拠点病院と在宅医療連携を通して～

岡山赤十字病院緩和ケア科 副部長 渡辺 啓太郎 氏

瀬戸内市における主要死因の第1位は悪性新生物（平成25年統計）となっており、がん治療や緩和医療は私たちの生活の中で身近なものになっています。治療法や緩和医療に関する理解を深め、地域でがんの療養生活を支えるために地域包括ケア全体研修会を行いました。

岡山赤十字病院緩和ケア科より渡辺副部長をお迎えし、「がん診療と緩和医療～がん診療連携拠点病院と在宅医療連携を通して～」と題し、基調講演をいただきました。現在のがん治療の状況や岡山赤十字病院で取り組まれている緩和医療、地域の多職種との連携等についてお話をいただきました。

実践発表では「がんとともに生きる～家族・医療・介護の立場から～」と題し、家族・医師・小規模多機能ホームの立場で、がん患者・家族の方々にどのように支援されているか、事例を交えお話しいただきました。



医療・福祉職等118名の方が参加され「患者さんにとって家族に看取られることで、安心して最期を迎えることができると思った」「在宅療養では、家族・地域の医療福祉との連携が大切であると分かった。がんに関する知識を増やし、専門職としてどのように関わっていくか考えたい」「どこで生活したいのか、どのように最期を迎えたいのか、支援者として本人・家族としっかり話したい」等の感想があり、がんや緩和医療に対し専門職としてどのように関わっていけば良いか、地域と共に何ができるか等、それぞれの立場で考える機会になりました。

それぞれが思う“私の最期の迎え方”について家庭や地域の中で話し合い、「その人らしく生きる」を支えることができるよう、この度の気づきを活かしていきましょう。

実践発表：がんとともに生きる

～家族・医療・介護の立場から～



<家族・支援者から実践発表>

始めました!!

在宅医療・介護への取り組み

～ケアネットせとうちの活動を ご紹介します～



地域で啓発活動に取り組んでいます ～瀬戸内市歯科医師会～



<家族の絆プロジェクト>

一般社団法人瀬戸内市歯科医師会は、約10年前より当時の「健康フェスティバル」において、80歳で20本の歯を保つ「8020運動」の表彰や歯科相談等を行ってまいりました。今年も東日本大震災等、災害時の身元確認作業に貢献するため、歯の治療状況を記録し登録しておく「家族の絆プロジェクト」やいい歯と笑顔のポスター表彰も行いました。

瀬戸内市においての我々の課題は、かかりつけの歯科医が在宅や施設に訪問し、歯科診療や口腔ケアを行っていくことと考えております。市民のみなさまのお口の健康を守り、健康寿命の延伸のために努力してまいります。(瀬戸内市歯科医師会)

「おくすり手帳」を活用しています ～岡山県薬剤師会瀬戸内支部～

現在、医療機関では患者様に「おくすり手帳」を利用いただいています。

この「おくすり手帳」に介護支援専門員の連絡先を書いたいただき、患者様が今かかっている病院の一覧表をつけることで、医療機関から介護支援専門員へ連絡を取るツールのひとつにもなり、患者様の急な入院・退院、在宅などの対応で連携を図りやすくなると考えております。

地域の皆様がより生活しやすい環境をつくるために「おくすり手帳」が活用されて医療・介護・福祉の連携が一層深まることを期待しています。(岡山県薬剤師会瀬戸内支部)



<薬剤師と介護支援専門員のみなさん>



糖尿病教室を開いています ～岡山県栄養士会玉瀬支部～

今年度の糖尿病教室は、牛窓地区を津島先生、長船地区は中村先生に医師の立場から講義を行っていただいています。食事については、管理栄養士が担当しています。第1回目は「糖尿病になぜなるの?」「おやつを見直しましょう」第2回目は「糖尿病を放っておくとどうなるの?」「惣菜・弁当の賢い利用法」第3回目は「糖尿病の治療について」「5000キロカロリーの食事を作ってみよう」のテーマで実施しています。



各地区、十数名の参加者の方々が熱心に聴き、メモを取ったり、日頃疑問に思っていることを質問されています。

(岡山県栄養士会玉瀬支部)



介護保険制度について学ぶ

(共催：NPO 法人岡山県介護支援専門員協会瀬戸内支部)

【日時】11月19日(木) 19:00～20:30

【テーマ】介護保険制度の最新情報

【講師】NPO 法人岡山県介護支援専門員協会
会長 堀部 徹 氏

平成27年4月、介護保険制度および介護報酬の改正が行われました。今回の改正では、「地域包括ケアシステムの構築」、「費用負担の公平化」等が主な改正内容として掲げられています。多職種による支援の中でも介護保険サービスの利用は欠かせなくなっており、支援者が制度について正しい理解を持つことが求められています。

11月19日(木) NPO 法人岡山県介護支援専門員協会より堀部会長を講師に迎え、介護保険制度について研修会を行いました。107名の方が参加され「介護保険制度の矛盾点や今後の方向性が理解できた」「地域における自分の役割について考えさせられた」「今後の状況は厳しく展望も見えづらいが、多職種連携で頑張りたい」等の感想がありました。

瀬戸内市でも要支援者への新総合事業が平成29年4月より始まります。変わりゆく制度や地域の中で医療・保健・福祉専門職に何ができるのか、地域の方々と共に「笑顔で長生きできるまち」を目指し、支援体制を考えていきましょう!!



<NPO 法人岡山県介護支援専門員協会 堀部会長>



10月22日(木) 第7回ケア・カフェせとうちを開催しました。「お互いを知る～他職種に伝えたいこと～」をテーマに63名の方が参加されました。職種や経験年数を超え、現在の職種に就いたきっかけや他職種に知ってもらいたいことについて話し合いました。「他の職種である薬剤師、ケアマネジャーの方々と話し、自分の施設では知り得ない情報を得ることができた」「それぞれの職種の現状を気軽に聴くことができた」等の声がありました。

ケア・カフェせとうちは参加者のみなさんや協力隊の方々に支えられ、毎回活発な意見交換の場となっています。新たな出会いや気づき生まれ、日々の支援における多職種連携が更にスムーズになることを願い、今後もみなさんのご参加をお待ちしています。

次回のテーマ：瀬戸内市にこんな病院があったらいいな



在宅医療普及講演会

【日時】 11月21日（土）
13:30～15:00

【演題】 家で死を迎えるのも、いいですね

【講師】 徳永進氏（野の花診療所 院長）



鳥取市「野の花診療所」でホスピスケアや在宅医療に取り組んでおられる徳永先生をお迎えし、在宅医療普及講演会を開催しました。

家庭や地域の中で最期を迎える方々に、医師の立場で寄り添ってこられた経験をもとに「家で死を迎えること」についてお話しいただきました。



約350名の地域のみなさんが来場され、徳永先生のあたたかいメッセージに元気をいただき、在宅医療について学びを深める機会となりました。

～来場者のみなさんより～

- ・先生の経験からの思いや考えを聞き「死ぬ力」という言葉が印象に残りました。最期に向かっている人に「今」何がしたいのかを聴ける人になりたいと思います。
- ・「死を迎えることは怖くない」いろいろ選択肢があると聞き、家族で連携して生きていきたいと思いました。
- ・自分の死の方について考えさせられました。
- ・在宅の良さに気づきました。最期まで意思を持って生きることが大切だと感じます。
- ・施設で働いていますが、施設でも在宅と同じように過ごせる方法を考えたいです。



<ケアネットせとうち事務局>

瀬戸内市保健福祉部 トータルサポートセンター準備室
〒701-4246 岡山県瀬戸内市邑久町山田庄 862-1（瀬戸内市総合福祉センター内）
電話：0869-22-3800 FAX：0869-22-3801